

第1学年〇組 英語科学習指導案

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 教科研究主題 基礎・基本を身に付け、コミュニケーション能力を高めるための指導の工夫

2 題材名 Program 4 リサイクル活動

3 題材について

(1) 題材観

① コミュニケーションの観点から

学習指導要領では、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」ことを目標にしている。この目標を受け、本題材では、学習指導要領の内容(1)ア(ウ)「質問や依頼などを聞いて適切に応じること。」イ(イ)「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」に重点を置き、指導していく。

本題材では、疑問詞 **what, how many** を学ぶことにより相手にたずね、答えることができる英語の表現の幅が広がる。そして、適切に相手にたずね、答えるために、その土台となる語彙・文法を口頭練習や書く指導を通して根気強く指導し、**Interview Game, Information Gap** などのコミュニケーション活動の中で使用できるようにしていきたい。また、既習事項を毎時間 **Qs. and As., Dictation, 英作文** などでくり返し確認をすることで新言語材料の習得と合わせて、コミュニケーション能力の基礎を培いたい。さらに、教科書の **My Project** や自分の考えや気持ち、事実などを伝える場面で実際に運用し、活用できればと考える。

② 言語材料の観点から

本題材では、疑問詞 **what, how many** を用いた疑問文とその応答文、名詞の複数形について学ぶ。疑問詞 **what** を用いた疑問文の導入においては、初めて疑問詞を用いた疑問文を学ぶため、既習の一般動詞の疑問文の語順を再確認しながら丁寧に指導していく必要があると考える。名詞の複数形については、身の周りのものを音声面から導入し、単数形との違いをしっかりと認識させ、複数形の綴りや音の違いにも注意を促したい。また、疑問詞 **how many** や複数形を学ぶにあたり、数字についても音声面、書く指導を通して確認しながら学習を進めいきたい。単語や基本文の口頭練習、ペアでのチェック活動、小テストなどをくり返し行い、疑問詞 **what, how many** を用いた疑問文とその応答文や名詞の複数形の習得を図り、さらに、様々なコミュニケーション活動に取り組むことで実際に運用する力を高めることができると考える。

また、授業の予習(Aノート・ワークブックの活用)、復習(Bノート・ワークブックの活用)をその都度点検し、家庭での学習を促し、新言語材料の定着を図るための一助としたい。

③ 国際理解の観点から

本題材は、マイクと由紀、武志の3人の休日の過ごし方についての会話で構成されている。武志のリサイクルの日の話に興味を持ったマイクが、一緒にリサイクル活動に参加するという対話内容である。昨今、地域を挙げて行うリサイクル活動が盛んである。身近なペットボトルのキャップを集めて、NPOに送り、発展途上国の子どもたちを救う活動も述べられている。この題材を通して、NPOの活動や発展途上国の現状を知ること、海外へも目を向けさせていく一つの機会になればと考える。

(2) 指導内容の系統性

教材の配列は次のとおりである。

小学校での外国語活動

「聞く・話す」活動
 How many?
 I like apples.
 What do you like?
 What do you want?
 What do you study on Tuesday?

第1学年

名詞の複数形
 I have two brothers.
 疑問詞を用いた疑問文
What do you ~?
 How many ~?
 Who is ~?
 When do you ~?
 How do you ~?
 What are you doing?
 Why do you ~?

第2学年

過去進行形の疑問文
 What were you doing?
 接続詞
 When you called me, ~.
 比較級を用いた疑問文
 Which do you like better?

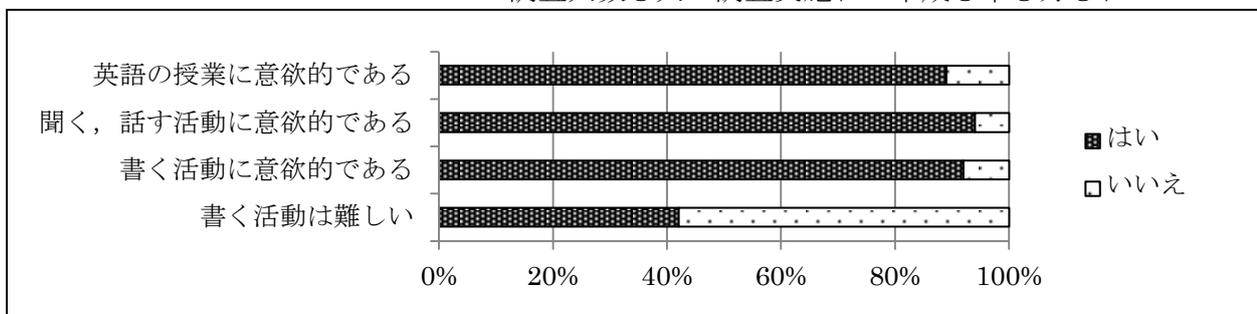
第3学年

間接疑問文
 I don't remember when ~.
 関係代名詞
 The girl who ~.
 I want to see the pen which ~.
 It's a special dish which ~.

(3) 生徒の実態 (○人)

本時の授業を行うにあたって、以下の調査を行った。

調査人数○人 調査実施日 平成○年○月○日



○英文を書きなさい。

- 1 私は由紀です。
- 2 あなたはマイクです。
- 3 あなたは野球ファンですか。
- 4 はい、そうです。
- 5 いいえ、ちがいます。
- 6 私は野球ファンではありません。

	正答	誤答	誤答例	無回答
1			. なし, am なし	
2			. なし, 文頭小文字	
3			? a なし, 文頭小文字	
4			. , ' なし	
5			. , ' ? なし 文頭小文字 no nat	
6			. ' なし a, not の語順	

〈 考 察 〉

本学級の生徒は、英語学習のルールや4月下旬から取り組んでいるペア学習にも慣れ、助け合い、教え合いながら学習する姿が少しずつ見られるようになってきた。しかし、話を聞く態度や発表の仕方などをくり返し指導していく必要がある。

調査からわかるように、英語学習への興味・関心も高く、授業への取り組みは意欲的である。小学校外国語活動において、音声面から英語に慣れ親しんできた経緯もあり、英語で質問したり、答えたりする活動にはほとんどの生徒が抵抗なく取り組んでいるのがわかる。しかし、「間違えるのが嫌」、「わからない」と悩んでいる生徒もいるため、全体での口頭練習を十分に行い、自信を持たせていきたい。また、英語を書く活動については、抵抗を感じている生徒が半数近くいるが、英語を書けるようになりたいと前向きな気持ちで単語や英文を書く練習に取り組んでいる姿が多く見られる。しかし、その一方で、文末のピリオド、疑問文

での文頭大文字表記，文末のクエスチョンマークなどがまだ徹底されていない。生徒の意欲を大切にしながら，英語を書くルールをくり返し指導し，根気強く教えていきたい。さらに，否定文では，not の文中での位置を正しく理解できていないことがわかる。毎時間の Warm-up を活用し，口頭練習や書く練習を十分に行い，本題材へ入りたいと考える。新言語材料の導入においては，説明し提示するだけでなく，シチュエーションを工夫し，生徒が考え，予想し，気づくようにしていきたい。

4 目標

- (1) 間違えることを恐れずに英語で話し，友達の話している内容を聞き取ろうとしている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 本文の概要を理解し，正しい強勢やイントネーション，発音で音読することができる。
(外国語理解の能力，外国語表現の能力)
- (3) 友達の話している内容を正しく聞き取り，事実を英語で正しく表現することができる。
(外国語理解の能力，外国語表現の能力)
- (4) 単語や文法（疑問詞 what, how many を用いた疑問文とその応答文，名詞の複数形）の用法を理解し，それらを用いて適切にコミュニケーション活動を行うことができる。
(言語や文化についての知識・理解，外国語表現の能力)

5 指導計画（8時間扱い 本時は2時間目）

時間	学 習 内 容	支援・指導上の留意点	評価と方法
1	○題材全体の学習の流れを確認し，Aノートに予習をする。	○題材全体を見通して準備，予習ができるように確認する。	○学習の流れを理解し，進んで予習に取り組もうとしていたか。（観察，点検）
2 本時 (1/2)	○疑問詞 what を用いた疑問文とその応答文の理解と運用を図る。	○一般動詞の疑問文から what を含む文へと進め，語順をしっかりと押さえ，理解できるようにする。 ○十分に口頭練習を行い，定着を図る。	○疑問詞 what を用いた疑問文とその応答文を理解し，適切に言語活動に取り組むことができたか。（観察，ワーク，プリント，後日テスト）
1	○section 1 本文の音読と内容理解をする。	○ペアでの音読練習や相互評価を取り入れることで，意欲的に概要把握や練習に取り組めるようにする。	○大切な部分を読み取り，正しい強勢やイントネーション，区切りなどを用いて音読することができたか。（観察，発表）
2	○名詞の複数形の理解と運用を図る。 ○疑問詞 how many を用いた疑問文とその応答文の理解と運用を図る。	○名詞の単数形と比較し，複数形についての理解を促す。 ○口頭練習を行う中で，数についても確認しながら，定着を図る。	○名詞の複数形，疑問詞 how many を用いた疑問文とその応答文を理解し，適切に言語活動に取り組むことができたか。（観察，ワーク，プリント，後日テスト）
2	○section 2, 3 本文の音読と内容理解をする。	○ペアでの音読練習や相互評価を取り入れることで，意欲的に概要確認や練習に取り組めるようにする。	○大切な部分を読み取り，正しい強勢やイントネーション，区切りなどを用いて音読することができたか。（観察，発表）

6 本時の指導

(1) 目標

○疑問詞 **what** を用いた疑問文とその応答文の用法を理解し、適切にコミュニケーション活動に取り組むことができる。
(言語や文化についての知識・理解)

(2) 展開

※評価に関する支援 ◎評価と方法

学習活動と内容	時配 形態	支援・指導上の留意点と評価	資料・教具
<p>1 Greeting and Warm-up (1) 挨拶を交わす。 (2) Qs. and As.を行う。</p>	7分 一斉 ペア	○元気に挨拶を交し、Qs. and As.に取り組むことで既習事項の確認と定着を図る。	絵 実物
<p>2 本時の課題を把握する。 (1) デモンストレーションを聞き、何を知りたいのか気づく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>相手が何をするのか情報を得るには英語でどのように質問したらよいか。</p> </div>	10分 一斉	○学習課題を確認し、本時の目標を明確にする。 ○知りたい情報が何か気づかせるために集中して聞かせる。	
<p>(2) 質問の仕方を考え、予想する。 ○Are you ~? ○What ~? ○Do you ~? ○What you ~ ? (3) デモンストレーションの続きを聞き、質問の仕方を知る。</p>		○既習の英語の疑問文、単語、英語表現から予想して、考えるように促す。 ○デモンストレーションの中で、疑問詞 what を用いた疑問文に気づくようにする。	
<p>3 疑問詞 what を用いた疑問文とその応答文を板書で確認し、口頭練習をする。</p>	5分 一斉 個別	※文字と音声の両面で基本文を確認し、全体での口頭練習を十分に行う。	
<p>4 コミュニケーション活動を行う。 (1) ペアでインタビューする。 A: What do you study on Monday? B: I study (2) インタビューの結果を確認する。 (3) 全体でインタビューゲームを行う。</p>	18分 ペア 一斉	※つまづいている生徒には、くり返し指導し、理解を確認しながら個別に支援する。 ※積極的にインタビューできない生徒には、声をかけ、援助する。 ◎疑問詞 what を用いた疑問文とその応答文を用いて、相手に質問し、聞かれたことに対して適切に答えることができたか。(観察・発表)	
<p>5 Conclusion (1) 本時の学習内容をノートにまとめる。 (2) 本時の学習のポイントについて質問に答え、確認する。</p>	10分 個別 一斉	○英文を書くルールを確認しながら書くように指導する。 ○板書を活用し、本時の学習のポイントを全体で再度確認し、次時の学習へつなげる。	カード 辞書 Aノート ワーク